

第13回、映画上映会のお知らせ！

タイトル：黒部の太陽

兼2月弘明寺サロン

日時：2019年2月9日(土) 13:30～17:30

会場：放送大学神奈川学習センター 第7講義室

プログラム

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 13:30～13:40 学歌斉唱 | 3. 17:00～17:20 太極拳実演 |
| 2. 13:40～17:00 映画上映 | 4. 17:20～ 懇親会 |

解説：『黒部の太陽』(くろべのたいよう)は、木本正次による1964年の小説、ならびにこれを原作とする1968年公開の日本映画。当時、世紀の難工事と言われた黒部ダム建設の苦闘、特にトンネル工事を描いている。

映画のストーリー：関西電力は黒部川上流に第四発電所を建設す

るため、太田垣社長総指揮のもとに社運をかけて黒四ダム工事に当たることになった。間組の国木田と熊谷組の下請会社の岩岡源三は、ともに現場責任者の北川を訪れ、ダム工事の難しさを知らされた。源三の息子剛は、トンネル掘りのためにどんな犠牲も省りみない源三に反抗し、家を出て設計技師として図面をひいていた。昭和三十一年八月、世紀の大工事といわれた黒四工事は、大自然との闘いの火蓋を切った。源三の息子剛は源三の様子を見に黒部に向った。源三はめっきりと体が弱くなっていた。剛は父に代ってトンネル掘りの指揮をとることになった。こうして工事が始って半年、犠牲者はすでに十六人を数え、難工事であることが現場の人たちに不安を抱かせ始めた。翌年の四月、北川たちが恐れていた事態が起った。軟弱な花岡岩帯にぶつかったのだ。五月に入ってすぐ、山崩れと大量の水がトンネルを襲った。この危機を切り抜けるため、色々な技術プランが検討されたが、工事は一向に進まなかった。現場は労務者が一人、二人と去っていく状態で、彼らの士気は上らなかった。一方、太田垣はあらゆる手を尽して危機を乗り切るため莫大な金を投入、技術陣の科学的な処置と、北川や源三たちの努力が実を結び、その年の十二月、ついに難所を突破。翌年十一月、剛は由紀と結婚した。そして二月、北アルプスを抜いてトンネルが開通した。その瞬間を躍り上って喜ぶ労務者たちの中で、昭和三十八年三月、黒四ダムは多数の犠牲を出して完成した。その日はちょうど北川の停年退職の日であったが、北川や剛たちはダムの偉容に、無限の感動を覚えていた。



入場無料 事前申し込み不要

どなたでも参加できます、直接会場にお越し下さい

主催：放送大学神奈川同窓会

担当：映画研究同好会 寺村 紀美夫、柳澤 明男、大野 貴司、呉 春美